

第 5 4 回加西市公共交通活性化協議会 協議結果

■第 5 4 回加西市公共交通活性化協議会の開催状況

○開催日程

令和 6 年 6 月 2 5 日（火） 1 0 : 0 7 ~ 1 1 : 5 6

○開催場所

加西市役所議会棟 1 階 多目的ホール

○協議参加者

2 1 名（委員 1 9 名 オブザーバー 2 名）

○傍聴者

1 名

■協議結果

○協議事項 1 「令和 5 年度事業報告及び収支決算について」

全会一致により承認

○協議事項 2 「令和 6 年度事業計画及び収支予算（案）について」

全会一致により承認

○協議事項 3 「令和 7 年度地域公共交通計画認定申請について」

全会一致により承認

○協議事項 4 「地域主体型交通の変更登録等について」

全会一致により承認

○協議事項 5 「コミュニティバス再編の方向性について」

全会一致により承認

■会議の経過

発言者	会議の経過／発言内容
専門委員 事務局 議長 事務局 議長	1 開会 2 報告事項 (1) 加西市地域公共交通計画の令和5年度実施状況の確認（資料1）について （事務局より資料説明） ・P.5 基本方針3の現状値が5.1%から3.9%に下がっている中で、総評のコメントでは「増加している」と示されているが、減少の誤りではないか。 ・割合としては減少しているため、訂正する。 ・増加と示すとプラス、減少と示すとマイナスのイメージがあるが、今回の場合は意味が違いため訂正をお願いする。また、「減少している」ではなく「改善されている」とした方が良いのではないか。 ・「改善されている」に訂正する。 ・P.7の1人当たりの行政補助額は増加しているものの、P.5の交通手段がないために外出を控えている高齢者割合は減少している。これは、施策を実施することにより予算額が増加し、サービスを向上させることで利用者数も増加し、その分行政補助額が増えたという結果である。そのため、「悪化した」と判断するのは先走りすぎであるため、「行政補助額増加により利用者数が増加した」と示す方が誤解がなく良いのではないか。また、私は他の市町の交通会議等に携わることが多いが、大都市部以外は人口減少とともに公共交通の利用者も減少している状況のため、何とかしたいという議論になる。しかし、加西市の場合、人口は減少しているものの公共交通の利用者は増加している状況である。これは、サービスが適切に向上する取組を行った結果、必要な人に必要なサービスが行き届いているということである。そのため、行政補助額を減少させてサービスを低下させてしまうと、これまで外出できていた人が外出できなくなることや、健康維持などで外出していた人が外出を控えるという事態となり、健康面でもマイナスの効果が現れてしまう。以上のことから、加西市は公共交通のサービスの向上に取り組み、利用者も増えている。非常に頑張っていると言える。 3 協議事項 (1) 令和5年度事業報告及び収支決算（資料2・参考資料）について （事務局より資料説明）

専門委員	参考資料 P. 4 の公共交通総合ホームページの制作について、加西市版 MaaS の構築を目指しておられるのではないかと印象を受けたが、意図したものなのか伺いたい。もし、意図しているのであれば、様々な事業が上手く組み合わせる形でこれから整備する計画や方向性をある程度打ち出して、それらに沿って施策が進められるように我々が意識して考えていくべきである。例えば、MaaS には様々なパターンがあり、情報提供だけのパターンや金銭のやり取り含めてすべてできるパターンもあるが、金銭のやり取りまでできるものということになると公共交通の支払い方法にも関連してくるため、協議会でも意識しながら進めていく必要があるのではないかと。
事務局	公共交通総合ホームページの制作はデジタル田園都市国家構想交付金を活用した事業となっており、令和 5 年度からの 3 か年事業である。令和 5 年度では土台作りとして紙版の「かさいおでかけナビ」のデジタル化を行っており、令和 6 年度では経路検索機能を加える予定である。最終年度である令和 7 年度では現時点の構想段階ではあるが、個人属性に応じたデジタルチケットの発券や地域通貨であるねっぴ〜Pay での支払いなどの実装を目指している。例えば、75 歳以上や障がい者の方に対応したチケットの発売や公共交通の乗り換えの際に追加料金を払わなくても良くなるような仕組みを考えている。
議長	MaaS は「Mobility as a Service (モビリティ・アズ・ア・サービス)」と言い、HP などのポータルサイト 1 つで公共交通についてのサービスを閲覧できるものであるが、市単独では効果がないように思うため、どのように広めていくか、さらにエリアの拡大も含めて検討・協議を行いながら進めていく必要がある。
議長	令和 5 年度事業報告及び収支決算について、協議が整ったことで承認いただけるか。
全員	異議なし
A 委員	(2) 令和 6 年度事業計画及び収支予算（案）（資料 3・参考資料）について （事務局より資料説明） 弊社のバス事業に関してご協力いただきお礼申し上げます。令和 5 年度の路線バス利用者数は減少傾向にあり、コロナ禍で減少した利用者が戻りつつあるものの、戻りが弱く、少子高齢化の影響も受けた自然減ではないかと判断している。今後は少しでも利用者が増加することを望んでいるため、事業者としてモビリティ・マネジメントに力を入れていきたいと考えている。

B 委員	・ はっぴーバスは、資料を見ても分るように利用者がなかなか増加しない状況である。そのことを受けて、昨年から加西親栄自動車と協議し、各町の区長や民生委員、シニアクラブ会長を集めてはっぴーバスに乗車してもらい、利便性について説明した内容を各町に持ち帰ってアピールしてもらうことを計画しているが、諸事情があり実現に至っていない。この計画は今年の秋を目途に開催を予定しているため、協力をお願いしたい。また、参考資料の中にあるバス待ち環境の整備について、令和 6 年 7 月 11 日には西在田小学校の児童と 3 度目の丸太椅子設置を行う予定である。当初の計画ではバス停 40 箇所に対して 1 年に 5 箇所分の作成・設置を行い、8 年で設置完了する予定であったが、小学校の再編計画により 2 年後には西在田小学校の統廃合が決定しているため、今後椅子作りを継続して実施するか小学校側と協議する必要がある。統廃合が行われると生徒が 1 クラスにつき 30 名となるため、生徒全員を原始人の会の事務所に呼ぶのか、原始人の会が小学校に出張するのかを含めて検討している。生徒にはできるだけはっぴーバスを利用してもらい高齢者にはっぴーバスを広めてもらうことを考えているが、現状難しい状況である。
議長	・ 民生委員等に相談することは大事なことであり、これがまさにモビリティ・マネジメントである。直接対面してお互い会話をし、行動の変化に繋げることが重要である。原始人の会では過去に移動に困っている方の自宅へ 1 軒 1 軒訪問し、はっぴーバスの利用方法やマイ時刻表を作成して手渡していたことにより、利用者を増やした実績もある。
B 委員	・ 令和 6 年 7 月 9 日に行う 6 年生の課外授業について相談したいとのことで、先日西在田小学校に伺った。課外授業の内容は、生徒と先生で西在田小学校からはっぴーバスを利用して中富口バス停で降車、ねっぴ〜号に乗り換えてアスティアかさいバス停で降車、さらに北条鉄道に乗り換えて法華口駅で降車し、法華口駅から徒歩で sora かさいに行ってみ学する。その後、sora かさいバス停からねっぴ〜号でイオンモール加西北条バス停まで行き、イオンで昼食をとった後はアスティアかさい内にある図書館で授業を行い、ねっぴ〜号とはっぴーバスを乗り継いで西在田小学校へ戻るという計画を立てている。しかし、時刻を調べると接続が上手くできておらずスムーズに行動できない状況である。具体的には、はっぴーバスとねっぴ〜号を乗り継いでアスティアかさいバス停に到着しても、到着の 10 分前に北条鉄道が出発してしまっている。昨日も西在田小学校へ行ったが、西在田小学校側では北条町駅まで保護者に送迎してもらうことを検討しているとのことだったため、公共交通を利用することを強く勧め、予定している時間より 1 本時間をずらせばバス・鉄道ともに上手く接続することを伝え

議長	に、もう一度西在田小学校へ協議に行く予定である。 ・公共交通の利用について、工夫する余地はあるためぜひ工夫して課外授業を実施していただきたい。子どもたちも良い経験になると思う。また、原始人の会と地域の方とのコミュニケーションを取る機会が増えれば良いと思っているため、引き続きお願いをしたい。
専門委員	・小学校との取組は是非進めていただき、上手くいけば良いと願っている。また、議長からも発言があったが、以前原始人の会で個人宅を回り、行き先を伺って利用方法を伝え、マイ時刻表を作成することではッピーバスを利用していなかった人が利用するようになったと記憶している。しかし、その頃から年月が経って利用者が世代交代しており、新たな高齢者や自動車運転免許証を返納された方、利用方法が分からない方が出てきているのではないかとと思っている。以前と同様に引き続き住民の方に情報の提供をお願いしたい。
専門委員	・参考資料の意図としては、資料 1 P. 2 の PDCA サイクルのイメージ図のとおりに進められるように、計画の進捗管理を行うためのものである。というのも、他の市町の協議会に参加した際に、5 か年計画で 4 年目の終わりに現計画のフォローアップをすることになり、計画で掲げている項目に対して 3 段階評価をすると全体的に評価が悪く、このままでは住民の方に見せることができないということになったため、急遽、できることからフォローアップしていくことで最終年度には評価を上げたという事例がある。1 年目から適宜評価をし、協議会の場で確認していくことが大切である。
議長	・令和 6 年度の事業計画及び収支予算（案）について、協議が整ったことで承認いただけるか。
全員	・異議なし
委員	(3) 令和 7 年度地域公共交通計画認定申請（資料 4）について （事務局より資料説明）
	・加西市では昨年度の資料を参考に「地域間幹線系統確保維持費国庫補助金」及び「地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金」（以下「幹線・フィーダー補助申請」という。）を行おうとしていると認識している。今回追加でお願いしている幹線・フィーダー補助申請は、簡単に説明すると姫路市まで運行するバス系統を維持していきたいという加西市の思いを国に提出するような手続きになる。幹線・フィーダー補助申請は 6 月末が期限となっているため、この時期に協議会

議長	を開催し対応いただきお礼申し上げます。また、地域間幹線系統の補助金は無限にあるわけではないため、利用者が減少し続けていると国からも指摘せざるを得ないが、計画に位置付けているということは頑張るという意思表示でもあると認識している。先ほどA委員より発言があったが、路線バスは利用者が減少しているが、計画内では増加するという目標を掲げており、尋常ではない取組を行う必要があるという覚悟で幹線・フィーダー補助申請を受け取ることになるため、委員の皆様には公共交通の利用促進を行っていただきたい。 ・ 1日平均利用者数15人を下回ると補助対象から外れてしまうため、加西市の財政力を高めるという意味も含めて補助金確保に努める必要がある。委員の皆様には公共交通に関心を持って見守り、行動に移していただきたい。
専門委員	・ P.14の計画別紙を見ると、事業目標として路線バス利用者数が挙げられているが、加西市においては外出を諦めた方を少なくすることが目標の1つであると理解している。例えば、ある地区の2人のうち、1人は週に1回バスを利用して外出しているが、もう1人はバスが利用しにくいため外出しづらいという方がバスを利用できるようになると利用者数は2倍になる。一方で、週に1回バスを利用している方が週に2回利用しても利用者数は2倍になる。しかし、前者と後者で意味が違う。我々は、外出しづらい方がバスを利用できるようになることを目的としているが、利用者数だけで見るとどちらかが識別できない状況である。そのため、識別できない状況の中で利用者数だけを増加させることは、計画の目的にそぐわないところがあるのではないかと。つまり、国は補助に対する目標として、利用者数増加が必須なのか伺いたい。
委員	・ 利用者数を目標値に挙げることは必須ではないが、公共交通を利用してもらえなければ収入として計上されず、利用者数も計上されないため、結果的には補助要件落ちになってしまう。そういう意味では、利用者数という観点は一概に無視はできないと思っている。1人1区間の利用では大したことではないかもしれないが、利用者数が0人でも良いとは思っていない。専門委員の発言にあった、利用していない人が利用することは素晴らしいことであるため目指してほしいが、金銭面の観点で見ると我々はどちらでも問題ないという回答になる。
専門委員 議長	・ 委員の回答を受けて、目標を利用者数だけで示すのはどうかと思っている。 ・ 代わりになる指標の提案はあるか。
専門委員	・ 「外出を諦めた人数」などが良いのではないかとと思うが、毎年更新するには調査が難しいと認識している。
議長	・ 外出を諦めた人の調査は非常に難しいため、「(公共交通サービスの向上により)

	新たに外出することができた人数」などが良いのではないかと思うが、実際の行動を調査しなければならないため、事務局と相談して決定する。
議長	令和7年度地域公共交通計画認定申請について、事務局での軽微な変更は事務局に一任し、結果については委員に報告することを条件に、協議が調ったことで承認いただけるか。
全員	異議なし
	(4) 地域主体型交通の変更登録等（資料5）について （事務局より資料説明）
委員	P.1の「運送しようとする旅客の範囲」の変更について、来訪者を追加することは良いことだと思うが、「登録団体」にある3団体とも変更という認識で間違いないか。
事務局	そのとおりである。
C委員	日吉地区乗り合いタクシーは交通空白地有償運送ということになっているが、P.3の図中には「タクシー」として示されている。タクシーという呼称は道路運送法第4条や21条に基づいた呼称であることから、日吉地区乗り合いタクシーについてはタクシーという表現を改めてもらいたいと考えている。
議長	運行開始時からこの名称であるが、過去に議論になったことはあったか。
事務局	先日C委員より問合せがあり、この点について兵庫陸運部に確認したところ、「タクシー」という名称は法律に抵触するものではないと回答を得ている。しかし、利用者が誤認するということであれば変更について検討する必要があると考えている。
議長	地域主体型交通であることをビジュアル等で分かるようにすれば良いのではないか。
C委員	加西市内にも営業所があるため、タクシーという名称は道路運送法第4条や21条に基づいて、本当のタクシー以外は名称を改めていただきたい。
議長	現段階でトラブルがあるのであれば変更する必要があると思っている。
C委員	冒頭、会長からも発言があったが、ライドシェアでも「タクシー」という呼称が用いられていることについて、他の法律も含めて違和感を覚えるため、タクシー協会としては区分けしたい。地域主体型交通が安全に運行していないということではないが、タクシーにおいては運行管理も含めて安全管理に対して最大限努力しており、管理体制も異なるため、タクシーはタクシーとして拘りたいと思

議長	っている。 ・ 一目で分かるようにすれば良いと思うが、問題があれば地域と相談して決定することとする。
議長 全員	・ 地域主体型交通の変更登録等について、協議が整ったことで承認いただけるか。 ・ 異議なし
議長	(5) コミュニティバス再編の方向性（資料6）について （事務局より資料説明） ・ これまで加西市における公共交通のメインターゲットは高齢者や高校生、身体が不自由な方であり、今回提案のあった加西工業団地や加西東産業団地、とこなべ工業団地は、公共交通の政策のターゲットとして見ていなかった。特にとこなべ工業団地での利用者は近年大きく増加しており、利用者が加西市に来てくれることで人口の定着が増え、従業員が加西市でお金を使ってくれることで街の活性化に繋がる可能性がある。したがって、サービス向上やバス待ち環境の整備の必要性などの実態を掴むことで、加西市全体の街を良くしていくための公共交通の出番がある可能性があるため、提案された取組は必要である。先走ったことかもしれないが、今回の再編検討の中で企業と関わることになるため、例えば企業の方を利用者代表として協議会に参加いただき、意見交換しながら工業団地で働いている方が利用しやすい公共交通とすることで全体的に自動車交通量が減りつつ、加西市に来訪する人は増えることになる。これらは環境面含めて望ましいことであり、人口の定着にも繋がるため、委員として参加してもらえよう進めていく必要がある。
議長 全員	・ コミュニティバス再編の方向性について、協議が整ったことで承認いただけるか。 ・ 異議なし
委員 会長 委員	4 その他 【小中学校の再編について】 ・ 小中学校の再編について、スクールバスは協議会では議題に上がらないのか。 ・ スクールバスも公共交通の1つであることから、今後は協議会でも議論を行う必要があると考えている。 ・ スクールバスを路線バスやコミュニティバスと組み合わせると利便性が良くな

議長	とと思っているため、今後協議会でも議論していきたい。 ・スクールバスにも様々な利用方法がある。スクールバスに混乗という形で一般の方にも利用してもらう方法や、路線バスのダイヤに合わせてスクールバスとして運行する方法などがある。地域の実情や輸送資源に合わせて協議会の場で議論しながら全体として利用しやすい方法を検討したいと思っている。
加西市教育部 長	・本日は小中学校の再編についてお知らせとお願いに参った次第である。加西市教育委員会では小中学校の統合再編を進めており、具体的には令和8年に泉中学校にある4小学校を統合する。令和10年に善防中学校・加西中学校・泉中学校を統合し、北条高等学校の隣に新中学校を併設、加えて、賀茂小学校・下里小学校を統合し、令和12年には富合小学校・九会小学校を統合する予定である。6年の間で統合小学校は3校、統合中学校は1校整備する計画である。これらの統合小学校、統合中学校においてはスクールバスを運行する予定であり、例えば2年後に統合する泉中学校区の小学校では朝1便、夕2便で中型バス・小型バス・ワゴン車合せて5台で2往復、計10ルートを運行する想定である。その後の統合中学校1校、統合小学校2校を併せると相当な台数のバスが市内を運行することになる。スクールバスは特定輸送ではなく車両管理業の形態を想定しているが、ドライバー不足を懸念しているところである。令和12年には統合中学校の近くに新病院も移転されることから、スクールバスの運行は加西市全体で既存の公共交通との連携を含めた計画の検討を考えている。そのため、スクールバスの計画に関して教育委員会から報告し、委員の皆様におかれましては、情報提供や相談に対する助言をいただきたいと思っているため、協力をお願いしたい。
専門委員	・加西市教育委員会からの提案は良いことだと思う。スクールバスの数が多いことから、先ほど委員からも発言があったように公共交通と相互に利用できるようにすれば輸送効率が上がるのではないかなと思う。例えば、昼間の時間帯でのスクールバスを公共交通として利用できるようにする、といったことも考えられるため、定期的に協議会にも参加いただき、検討していることを報告いただくことで協議会にとっても良いのではないかなと思う。
議長	・報告いただいた内容は大きなインパクトがある。学校は決まった時間に集中するため、供給側をいかに確保するかが重要である。そのため、協議会で協力できることがあれば是非協力したい。全体を上手く回すためには公共交通のマネジメントも必要であり、今の計画をどのようにアレンジするかにも繋がっていくため、今後も良いコミュニケーションを取りたいと考えている。

事務局	【次回協議会の開催について】 ・ 第 55 回協議会は、令和 6 年 10 月頃の開催を予定している。 5 閉会
-----	--